

まぐろ・カジキの「血合」 新ネーム発表・記念講演会  
&  
神奈川県水産技術センター 研究発表会  
プログラム

令和6年10月20日（日）

開 会 9:00～

挨拶 まぐろ未病改善効果研究会 会長 山本 浩司  
三浦市 市長 吉田 英男

来賓紹介

新ネーム発表 くろば亭・山田芳央氏の書道パフォーマンスにより発表  
表 彰※

記念講演 9:20～

【まぐろ血合新ネーム発表記念講演会】

まぐろ血合肉は、これまで食品として十分活用されていませんでした。

しかし、聖マリアンナ医科大学、国立研究開発法人水産研究・教育機構水産技術研究所、神奈川県水産技術センターの共同研究により、活性酸素を除去する抗酸化作用や長寿に係る因子の活性化など、未病の改善や健康の維持・増進に役立つことが明らかにされ、その価値が注目されています。

そこで、記念講演では、まぐろ血合肉に関する共同研究の中核を担っておられる研究者の方に、これまでの研究の成果をお話しいたします。

講師 遊道 和雄 9:20～

医学博士

聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長

同センター診断治療法開発・創薬部門 部門長

大学院難治性疾患病態制御学 教授

山下 由美子 9:40～

博士（農学）

国立研究開発法人水産研究・教育機構

水産技術研究所環境・応用部門水産物応用開発部研究員

質 疑 10:00～

～～～～～～～～～休憩（試食時間含む）～～～～～～～～～ 10:10～

【神奈川県水産技術センター 研究発表会】

三崎のまぐろ血合肉で地域の魅力Up! 石黒 雄一（所長） 10:20～

神奈川県で藻場再生に取り組んでいます！ 高村 正造（企画研究部）

ドローンから魚を観察してみました 田村 怜子（相模湾試験場）

質 疑 11:05～

閉 会 11:15～

---

## 三崎のまぐろ血合肉で地域の魅力 Up !

石黒雄一 水産技術センター

---

### 【目的】

三崎漁港は、日本でも有数の冷凍まぐろの流通拠点であり、冷凍まぐろを取り扱う業者は、その良し悪しを見定める「目利き」の技術や、冷凍まぐろから必要な部位を切り出す「裁割」技術などに優れています。また、超低温での貯蔵・流通といったコールドチェーンが確立されています。そのため、おいしい「三崎のまぐろ」は全国的な知名度があり、多くの観光客などがそのまぐろを食べるために三浦・三崎を訪れています。

皆さんが食べているまぐろは、赤身やトロといった「普通筋」と呼ばれる部位で、血合肉(血合筋)は、あまり利用されていませんでした。

しかし、県水産技術センターは、国立研究開発法人水産研究・教育機構、学校法人聖マリアンナ医科大学と共同研究を行い、まぐろ血合肉は抗酸化物質セレンを多く含むため、未病改善への効果が期待できることを明らかにしました。この研究結果を基に「三崎のまぐろ血合肉」という新たな素材を活用し、地域の活性化を図っていくことになりました。

そして、この新たな地域産品である「三崎のまぐろ血合肉」を活用した地域活性化の取組は、三浦市内の飲食店、水産業者などのメンバーで設立した「まぐろ未病改善効果研究会」が主体となって始まっています。

### 【取組概要】

- ・取組の主体となる「まぐろ未病改善効果研究会」が、飲食店、加工業、漁業者、観光業者等をメンバーとして三浦商工会議所内に設立
- ・まぐろ血合肉の加工品開発
- ・まぐろ血合肉の健康増進効果を損なわないための、取扱い基準等の検討
- ・まぐろ血合肉取扱店の認証制度の検討



まぐろ未病改善効果研究会  
キックオフイベント



写真提供：三浦市市場管理事務所  
三浦市低温卸売市場での  
マグロの取引



まぐろ血合肉



まぐろ血合肉加工品

---

神奈川県で藻場再生に取り組んでいます！  
高村正造 水産技術センター資源管理課

---

**【目的】**

相模湾沿岸ではカジメ等の藻場が磯焼けにより減退・消失しています。一般的にカジメは、発芽から1年半程度で成熟しますが、生育環境の悪化した海域では、成熟までに時間がかかるカジメは生き残ることが難しい。一方、カジメの中には幼葉が現れてから半年程度で成熟する「早熟性カジメ」が存在し、一般的なカジメよりも磯焼けへの耐性が強い(木下ら, 2023)。県水産技術センターでは、この早熟性カジメを培養・育成して、漁協・漁業者と協同して育成したカジメを海域展開し、失われたカジメ藻場を再生させる研究・技術開発に取り組んでいます。

**【方法】**

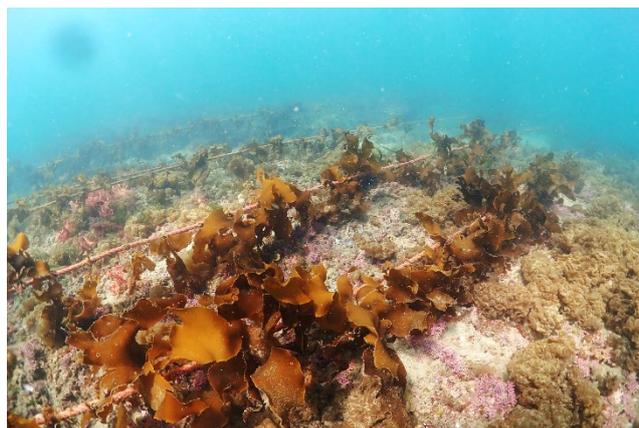
県水産技術センターでは、成熟した早熟性カジメの葉を採集し、藻場再生に使用するカジメの培養・生産を行っています。生産したカジメをロープに挿し込んで海底に敷設する方法でカジメ畑を作り、敷設したカジメが成長・成熟し、周囲に遊走子を拡散することで、藻場の再生・拡大を目指します。

**【結果】**

令和5年度に藻類培養室の整備を行い、令和6年度から大量生産試験を開始し、約4万株の早熟性カジメ株を生産しました。海域での早熟性カジメ展開試験は令和3年度から開始し、これまで三浦市城ヶ島、諸磯、小田原市などで海底にカジメ畑を設置する試験を実施し、設置後の成長・成熟の状況を確認しました。令和6年度以降は相模湾沿岸で広域的な藻場再生を進めるために、県内各地の漁業協同組合と協力して、藻場再生事業を継続していきます。



早熟性カジメの育成施設



海底に設置したカジメロープ

---

ドローンから魚を観察してみました  
田村 怜子 水産技術センター相模湾試験場

---

**【目的】**

本県の相模湾沿岸には定置網という魚を獲るための大きな網が海の中にいくつも敷設されており(図1)、漁業者がその時々には獲れる旬の魚を県民に届けています。今回はドローン等を使って定置網の防災のために敷設の状態を確認する調査をしている中で観察された、定置網内やその周辺を遊泳する魚について紹介します。

**【方法】**

相模湾内に敷設されている定置網の空撮調査のため、当場の漁業調査指導船「ほうじょう」によりドローン(DJI製 Phantom 4pro)を用いて撮影を行いました。また、定置網の中に長期的にカメラを設置して撮影を行ったり、船外機船により網内に入ってその場で撮影を行ったりすることで網内の魚の水中画像を取得しました。

**【結果】**

ドローンによる空撮では、水面すれすれを泳ぐシイラや網地の周辺を泳ぐメジナのほか、偶然大量に網に入っていたマグロの群れなどが見られました(図2)。また、網の中に設置した水中カメラの撮影で得られた画像からは、サバやイワシ、タチウオの群れなどが見られました。特に、水中で撮影された網の中にある魚の映像は、定置網漁業の作業効率化にも利用できる情報であるため、今後の定置網に関する試験に活用していく予定です。

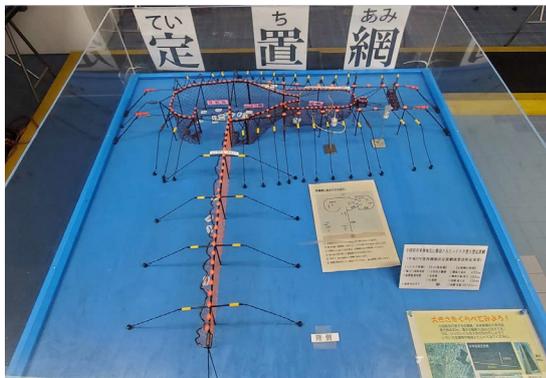


図1 定置網の模型(左)と実際の定置網(右)

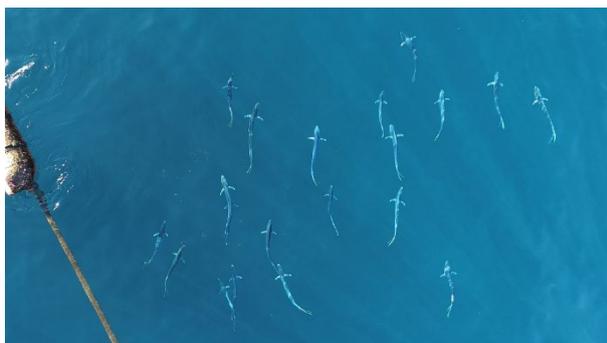


図2 ドローンで撮影されたシイラの群れ



図3 網の中で撮影されたサバの群れ